



心の時代



受験期に入ってまいりました。志学ゼミでは十月から個人面談を繰り返しています。大学入試の塾生は十一月上旬から受験スケジュールの作成に入っています。かかるにはかかるだけの要因があります。段取り八分という言葉がありますが、何事も段取りが大切です。

過去問のデータ、塾内模試、対外模試を見ながらまずは滑り止めを考えていきます。その際、受験を予定している学校のリストアップをします。そして次回の面談までにすることを伝えています。出願締め切り日、合格発表日、手続き締切日を予定表に書き込みます。第一志望に向かって、入学金等の無駄がないかどうかを確認します。そして検定料、入学金、授業料等の初年度納入金を表にして作ってもらいます。それを保護者様に見せて、受験の予算を確認してもらいます。予算内で共通テスト何校、一般入試何校と受験をする学校の数が決まってきます。金額を自分で調べることで、「受験する」のではなく「受験が出来る」もう一歩進んで「受験をさせてもらえる」という気持ちになってほしいからです。受験期を通して保護者様に感謝の気持ちがないとなりません。受験生本人が保護者様に話をしっかりとしていない場合もあります。受験生に話した内容を保護者様に伝わっているかどうかを確認し、必要に応じて保護者面談をします。

十一月下旬の面談でスケジュールリストを確認し、過去問の出来を聴きながら受験方法を確認して行きます。英検の得点が換算するとその学校では何点になるのか(受験で使える点数であるかどうか)、一般入試の英語の問題が本人にあってるかどうか鉄人(水谷講師)に訊きながらアドバイスをします。同じことが理数科目にも言えます。問題傾向が自分に合っているかどうかは大事なことです。その上で〇〇大学の問題を解いてごらんと伝えてデータをとっていきます。合格最低点を意識しながら、合格点のシミュレーションを繰り返していきます。

まずは共通テスト。ここで確実に滑り止めを抑えることを勧めています。ここで受かっておくと気持ちが楽になります。一般入試を前にして友達がこの学校は合格圏内にあるなどと話をしているときに何もないと不安と焦りが生じます。まずは受かり癖を作ること。合格するときは一つではありません。もちろん一校しか受けないという場合は別ですが。

この繰り返しのなかで、何を補充していかなければならぬかが見えてきます。模擬試験で E 判定(私はいい判定と言っていますが)であっても受かることは偶然ではないのです。模擬試験はあくまで目安です。もちろん参考にします。受験希望者数を見ながら、予備校等の合格可能性パーセントを見ながら様々な角度から数字を読んでいきます。

過去問を見ながら出題傾向の分析も大切なことです。予備校に問題作成を任せている大学もありますが多くの自校作成問題です。よく見ておられますと自然とその傾向が見えてきます。歴史などここから傾向が変わったなあと思われるところがあります。問題作成者が変わったなあと感じられることがあります。そして本年度の問題の予想を出して本人にここを見直してという指示を出します。

受験がうまくいく生徒は素直に人の話を聴ける場合が多いですね。自分の考えだけで進むのは危険です。私達はプロですからあらゆる角度から考えて話しをします。受験生本人、保護者様の考えもございますからもちろんそれを踏まえた上で、うまくいった場合、そうでなかつた場合のすみ分けをして説明を繰り返し、納得の行く受験をしてほしいと考えています。

受験期は自分を成長させる黄金期です。しっかり話を聴けるいい時期